ミカン生育情報

第　３　報
千葉県農林水産部
令和５年８月号

８月１日現在の果実の肥大は「興津早生」、「大津４号」及び「青島温州」は平年より進んでおり、「日南１号」は平年並みとなっています。
極早生、早生温州は８月上旬、普通温州は８月中旬に仕上げ摘果を行いましょう！

１　令和５年７月の気象

令和５年７月の半旬別の気象を表１に示した。平均気温は全ての半旬で平年より高かった。月平均気温は26.8℃で、平年より 1.6℃高く、前年より 0.2℃高かった。

降水量は、第１半旬で27.0㎜、第２半旬で22.0㎜の降雨があり、それ以降は降雨がなかった。月合計の降水量は49.0㎜で、平年の28%、前年の25%であった。

日照時間は、第１半旬で平年より少なく、第２半旬以降は平年より多かった。月合計の日照時間は274時間で平年の153%、前年の145%であった。

表１　令和５年７月の気象（アメダスデータ館山より）

半旬	平均気温(℃)			降水量(㎜)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	24.9	23.8	26.3	27.0	37.1	21.5	21	23	28
2	26.4	24.4	25.5	22.0	39.0	0.5	39	26	20
3	27.2	25.0	24.9	0	33.8	72.0	33	28	12
4	27.5	25.4	26.3	0	25.8	91.5	53	30	21
5	26.1	25.9	27.4	0	20.9	7.5	57	32	42
6	28.6	26.4	28.6	0	19.2	5.0	71	42	65
平均/計	26.8	25.2	26.6	49.0	175.8	198.0	274	179	189

※本月の各数値については暖地園芸研究所内の観測機材が不調のため、アメダスデータ（館山市）より引用

２　果実及び樹の生育

８月１日における調査園の果実生育状況を表２に示した。横径は「日南１号」が 4.6cm、「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 4.3cm、4.2cm、4.2cm であった。「日南１号」は平年比 98%、前年比 105%であった。「興津早生」は平年比 110%、前年比 110%であった。「大津４号」は平年比 114%、前年比 105%であった。「青島温州」は平年比 114%、前年比 102%であった。

縦径は「日南１号」が 3.6cm、「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 3.7cm、3.3cm、3.4cm であった。「日南１号」は平年比 92%、前年比 97%であった。「興津早生」は平年比 106%、前年比 97%であった。「大津４号」は平年比 106%、前年比 97%であった。「青島温州」は平年比 106%、前年比 97%であった。

果形指数は「日南１号」が 1.3、「興津早生」、「大津４号」、「青島温州」が３地区の平均でそれぞれ 1.2、1.3、1.3 であった。全般的に平年に比べ扁平傾向であった。

表２　果実の生育（令和５年８月１日）

品　　種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南１号	暖地園研	4.6	4.7	4.4	3.6	3.9	3.7	1.3	1.2	1.2
興津早生	三芳地区	3.8	3.8	3.8	3.2	3.4	3.6	1.2	1.1	1.1
	千倉地区	4.8	3.9	4.0	4.2	3.5	3.5	1.1	1.1	1.1
	暖地園研	4.3	3.9	4.3	3.6	3.5	4.0	1.2	1.1	1.1
	平　　均	4.3	3.9	4.0	3.7	3.5	3.7	1.2	1.1	1.1
大津4号	三芳地区	3.9	3.7	3.9	3.2	3.2	3.4	1.2	1.2	1.1
	千倉地区	4.3	3.8	3.9	3.4	3.2	3.3	1.3	1.2	1.2
	暖地園研	4.4	3.7	4.2	3.4	3.0	3.5	1.3	1.2	1.2
	平　　均	4.2	3.7	4.0	3.3	3.1	3.4	1.3	1.2	1.2
青島温州	三芳地区	3.9	3.7	4.0	3.2	3.2	3.4	1.2	1.2	1.2
	千倉地区	4.4	3.8	4.0	3.5	3.2	3.3	1.3	1.2	1.2
	暖地園研	4.3	3.7	4.4	3.4	3.2	3.7	1.3	1.2	1.2
	平　　均	4.2	3.7	4.1	3.4	3.2	3.5	1.3	1.2	1.2

各地点の各品種の値は40果の平均
果形指数は、横径／縦径

３　８～９月の栽培管理

（１）摘果

極早生、早生温州は８月上旬、普通温州では８月中旬（粗摘果の１ヶ月後）に仕上げ摘果を行う。摘果程度は１果当り葉数で極早生温州は 20～25 枚、早生温州は 25～30 枚、普通温州は 20～25 枚とする。

着果が少なく果実が大玉である場合は、仕上げ摘果は行わずに収穫１ヶ月ほど前の樹上選果のみとする。

着果量が中程度の場合は間引き摘果を行い、小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果、傷果などを優先的に摘果する。

着果量が多く、粗摘果の際に枝別全摘果を行った樹では、着果させる枝についても小果、大果、内成り、すそ成り、奇形果などを軽く摘果する。

（２）マルチ資材の被覆

高品質果実の生産にマルチ栽培は有効である。被覆は、夏の乾燥期が終わり秋雨期に入る前の８月下旬、遅くとも９月上旬に開始する。土壌の乾きやすさや灌水設備の有無によって、開始時期や被覆面積を調節する。マルチの適地は、ゆるやかな傾斜地で日当たりや水はけが良く、風の影響が少なく、普段から高品質の果実が生産できる園地である。

（３）　主な病害虫の防除

１）かいよう病

本病は２次伝染を繰り返すので、薬剤で春梢に対する初期防除を徹底する。果実に対しては梅雨から果実肥大期を重点に防除し、その後は夏秋梢に対するミカンハモグリガの防除を行う。また、特に感受性の高い品種を栽培する場合には、園地の防風対策を行う。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による薬害が起こりやすいので、２週間は散布時期をずらす。

２）黒点病

枯枝が最も重要な伝染源となるため、生育期を通じ、枯枝の除去を徹底する。また、密植園の伐採、老木の更新など、各種要因により枯枝ができないような栽培管理が必要である。薬剤散布は、梅雨前の５月中下旬から開始し、以降、累積降雨量が 250㎜ 前後に達した時点で散布を行う。防除は、９月上中旬まで継続して行う。

３）ミカンサビダニ

６月頃から９月まで果実を加害する。被害が拡大する恐れがあるため、果実１～２個の被害を見たら直ちに防除する。特に梅雨明け直後に行う防除が重要である。樹冠の内部・上部など薬剤のかかりにくい部分に発生が多いため、摘果時に注意深く見る。黒点病の防除に用いられるマンゼブ剤により同時防除が可能だが、多発した場合は登録のある殺ダニ剤の使用が有効である。

４）ミカンハダニ

果実や葉を加害する。増加期の６月にはマシン油乳剤（97%）150 倍液を散布する。この時期の判断は、寄生葉率 30%を目安にする。また、９～10 月に多発するので、秋期には寄生葉率 20%を目安に殺ダニ剤を散布する。

５)ミカンハモグリガ

通常の結果樹では徒長枝は冬季にせん除するので、本虫の被害を受けても防除の必要はない。しかし、激発した場合や、隔年結果樹、高接ぎした樹や苗木、幼木など、新梢を利用する樹では防除が必要である。新葉展開初期から２～３回、殺虫剤を散布する。

６）チャノキイロアザミウマ

成虫の発生時期である５月中旬、６月中旬に殺虫剤を散布する。本種は防風樹として利用されるイヌマキやサンゴジュでも増殖し、成虫の羽化時期に刈り込むとカンキツへの飛来が多くなるため注意が必要である。

※極早生温州等､収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意をする。
※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の発行元 》千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室
《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室
電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html